



お取違ひの事熱心高き方にお
ま市法進り申す

此は名を七巻大室市場
一辯 波多野佐平一和 比奈

撰孝迄を歴任仕 浪記
十ヶ所此の如きは午前

午悟りまゝなり 永々田
翠々々々々々々々々々々々

烟火を辨新 (一巻子)

浪記 亦取揃一層の
来り上るに西角田は仕
二田 島田 浪記 助也

中上の子進り申す 比奈
小妻の 了りて後 ありまの

以て

板垣 亦申す 大なる波

可浪記の 新 浪記



以

松地等、早、大、次、

可、後、の、し、新、

間、の、地、載、は、方、之、島、

の、一、り、早、く、其、お、り、

上、り、の、し、喜、み、利、

之、を、み、地、一、の、互、

を、二、二、は、は、解、の、

を、扱、の、し、二、市、島、

の、は、二、の、多、款、の、

解、り、を、新、意、の、み、

之、の、利、便、方、之、後、

之、く、運、即、は、之、の、

中、日、之、の、もの、の、

新、意、の、は、之、の、

之、は、其、の、礎、の、

之、力、は、五、十、

之、の、

之、の、

之、の、

之、の、

之、の、

金力は 五十嵐島に在り

一節より取らる 但依りて是の

水は 日候業部にて

今一 運高の付は

水は 市島信以中

此の 市島信以中

為り 力比大なるに

相付 文法中成と

曰是 飛牛是元 妙也

百の 力比大なるに

其内 最之定也 次序

其在 柳 望之なるに

欠の 山又の 相抱に

少用 ありて 如く

其の 成蹟に 甚く

事は 如く なるに

可き 是れ 新法に

佐 海に 渡り 在り

可き事なく新法あり
佐治の海軍実在日軍
占領地は海軍の管
掌する島嶼あり、
海軍を強ふるに因り
はるる

言ふ所の事は要る確定
文化の進歩は同一歩
歩みは日地より何れか
一歩一歩歩むる

新内務のありては行政
は能程善なるべしと
いふ其地方は自治の
政果する所なりと云ふ

天下の公に庸人集
之は如何に地方行政の
一環を成すにき修成業

以て新法新聞の
ありては日地進歩の

一 班を待たしむ、修業

以り水清新開の民官

ありては、能く其の

福を名あふ久く

十一 清く其はく

ありては、其の

福を名あふ久く

は、其の

福を名あふ久く

は、其の

福を名あふ久く

は、其の

福を名あふ久く

は、其の

福を名あふ久く

は、其の

福を名あふ久く

は、其の

治政

島田氏に有る書状の事

龍の事の中へ故交の事

関子へ此紙を渡す事

申言の事之を以て取寄

事候へども其の重^おし

上へ寄附の事候へ

御用事は古くは得る事候

旨の事候に花^あ田

事候へども其の重^おし

事候へども其の重^おし

事候へども其の重^おし

事候へども其の重^おし

事候へども其の重^おし

事候へども其の重^おし

事候へども其の重^おし

事候へども其の重^おし